

運送業界の健康支援を生きがいに

148 運送業 1000人の健康状態が浮上!!



○CHISでは、当法人が構築した「運輸ヘルスケアナビシステム」に基づき、全ト協の実証実験(予定2000人)を委託していますが、10月27日の第12回○CHISセミナー(大阪大学中之島センター)での中間報告を控え、9月末時点で入力が終わった14社・1041人(平均年齢46・5歳)の定期健康診断結果を分析してみました。今回は、本紙読者の皆様に○CHISセミナーより一足早く、「予告編」としてお届けしたいと思います。

◆50歳代は最も危険

本システムの最も重要と捉えているのは、「ハイリスク者の見える化」ですが、実に126人(12・1%)が、ハイリスク条件に該当しました。該当者の最も多かった年代は50歳代で51

人(40%)、続いて40歳代で45人(35%)と、この年代だけでハイリスク者全体の75%を占めていました。40、50歳代は、まさしく働き盛りの年代でもあるのですが、その一方で長年の生活習慣のツケや、疲労などが一挙に押し寄せてくる年代とも言えるため、長時間労働など就労のあり方も含め、特に注意の必要な年代であることが本システムにより浮上しました。

◆ハイリスク者とは?

話は前後しますが、ハイリスク者とは「肥満」「高血圧」「脂質異常」「高血糖」の有所見が3点、もしくは4点重なってしまった人をいいます。このように複数の所見があると、脳・心

臓疾患にかかるリスクが急増し、突然死などの誘発要因となるため、職業ドライバーの健康起因事故防止対策としては、最優先すべきビックアップ項目なのです。つまりこれが、本システムが目指す、「ハイリスク者の見える化」です。

◆見えなかったものが見えてくる

さらに健診データから「ワースト5」で検査数値が、どのレベルなのかを出してみることにしました。そこでワースト1としてリストアップされたのが、収縮期血圧258、拡張期血圧134という、「超高血圧保有者」です。ここでは該当者へのコメントは差し控えますが、このように本システムの実証実験が本格稼働することにより、今まで見えなかった超ハイリスク者や取り組みへの課題が、どんどんと見えてきています。

お伝えしたいことは山ほどありますが、詳細は○CHISセミナーでご説明致したく存じます。ぜひ会場まで足をお運びください。

(次回は11月13日に掲載)

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>